

【樹木・草花の部屋】

イロハモミジ (カエデ科/カエデ属 *Acer palmatum*)

和名; イロハモミジ **別名**; イロハカエデ (いろは楓)、タカオカエデ (高雄楓)、コハモミジ (小葉紅葉) **英名**; Japanese maple

ムクロジ目 落葉高木

原産地; 東アジア **花言葉**; 美しい変化、遠慮 **花の色**;



← 写真-1 イロハモミジ

撮影日: 2013年4月7日

撮影場所: 京都市銀閣寺にて

撮影者: Mさん

錦鏡池 (きんきょうち) を挟んで銀閣寺の対岸の小高い丘の一角で見つけました。もともと、銀閣寺はコモミジの名所でもあり、境内にはたくさんのモミジが植えられています。樹高 15m、幹の直径は 80cm 以上に達する。雌雄同株です。

写真-2 イロハモミジの葉 ⇒

撮影日: 2013年4月7日

撮影場所: 京都市銀閣寺にて

撮影者: Mさん

葉は長さ 3.5~6cm、幅 3~7cm で、掌状に深く 5~9 裂。和名は、この裂片を「いろはにほへと……」と数えたことに由来。裂片の縁には鋭く不揃いの重鋸歯があり、裂片の先は長く尾状に伸びる。秋 (10~12 月) には黄褐色から紅色に紅葉して散る。



←写真-3 イロハモミジの花

撮影日: 2013年4月20日

撮影場所: 広陵町馬見丘陵公園にて

撮影者: Tさん

花期は春 (4~5 月)。花は直径 5~6mm。暗紫色で 5 個の萼片と、黄緑色もしくは紫色を帯びる萼片より小さい 5 個の花弁をもつ。果実は翼果、長さ 1.5cm 程度の翼があり、夏から初秋にかけて熟すと風で飛ばされる風媒花です。



【樹木・草花の部屋】

イロハモミジはオオモミジとよく似ていて、オオモミジはイロハモミジの変種とされていたようですが、現在は別種とされているそうです。

「モミジ」は木の葉が色づくことの古語「もみち」から、「カエデ」はカエルの手の意。別名タカオカエデは、京都の高雄にちなんだ名で、葉はオオモミジやヤマモミジなどに似ていますが、本種の葉は一回り小さく、鋸葉が粗く不揃いだそうです。

イロハモミジ、ヤマモミジ、オオモミジの見分け方

相違点

*分布：

- ・イロハモミジとオオモミジは太平洋側、ヤマモミジは日本海側に自生。
- ・イロハモミジは照葉樹林帯に属しますが、分布の北限である福島県の場合、標高 500m を境として、低いところではイロハモミジ、高いところではオオモミジが自生。

*葉形：

- ・イロハモミジとヤマモミジは外周のギザギザが二重の「重鋸葉」、オオモミジはギザギザが一重の「短鋸歯」。

*実の形と付き方：

- ・イロハモミジの実が一番小さく、翼状の実（翼果）は竹とんぼのように、水平に開く。また葉の上からかぶさるように実を付ける。ヤマモミジとオオモミジは、翼果はブーメラン形かU字状となり、実は葉の下からぶら下がるように付く。
- ・オオモミジはヤマモミジよりも翼果が大きく、またU字状を呈するものが多いという傾向がある。

*枝先：

- ・葉が固まった6月から3月までの枝先を見ると、イロハモミジは赤みがあるのに対して、ヤマモミジとオオモミジは先端まで黄緑がかっている。